

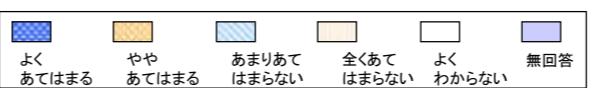
# 令和7年度 『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立峡田小学校

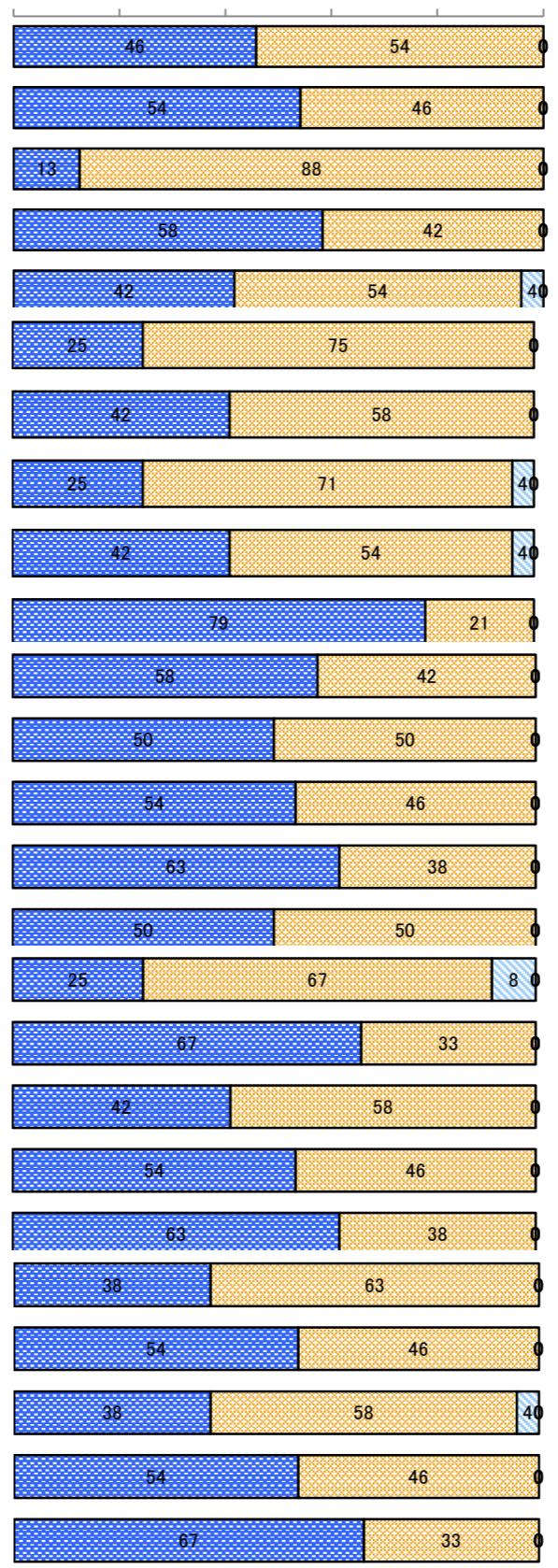
様式4

		アンケートの結果						
		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
学校全体の様子	1 教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。						
	2 児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	45	43	6	1	5	0
	3 基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりとしている。	46	50	1	0	3	0
	4 児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	32	62	3	0	2	0
	5 健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	46	41	11	1	1	0
	6 分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	44	47	6	0	2	0
学力向上の取組	7 個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	65	26	5	1	3	0
	8 学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	52	45	2	0	1	0
	9 情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	53	37	7	1	2	0
	10 学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	40	49	4	2	6	0
	11 人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	37	51	2	0	9	0
社会性・人間性の育成	12 道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善惡の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	43	49	1	0	7	0
	13 教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	36	47	2	0	15	0
	14 人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	50	48	0	0	2	0
	15 自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	50	43	0	0	6	0
	16 情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	36	59	3	0	2	0
保護者・地域との連携	17 相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	49	40	2	1	8	0
	18 学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	53	44	2	1	0	0
	19 地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	47	41	2	1	9	0
	20 意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	52	29	6	0	12	0
	21 【SNSルール】	日頃からスマートフォンやタブレットPCの使い方について児童と話し合っている。（指導している。）	35	55	7	2	2	0
各学校の特色ある教育	22 【キャリア教育】	学校行事や自主学習の機会を充実させ、個々の意欲を高めながら、児童の将来を見据えた教育活動を行っている。	30	52	4	1	13	0
	23 【外部人材の活用】	ゲストティーチャーなど外部人材を招く取り組みを充実させ、児童の学びを深めている。	32	33	19	7	9	0
	24 【学習環境の整備】	校内の清掃が行き届き、児童の作品や学びの空間が整えられ、学習環境が整備されている。	53	44	2	0	2	0
	25 【チーム峡田】	教職員と保護者、地域が一体となって、児童の成長を願う取組を行っている。	46	37	7	1	9	0
			40	52	2	1	6	0

無効票を除く(%)



0% 20% 40% 60% 80% 100%



## 学校の自己評価（考察）

1～5の質問項目について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答は、児童・保護者・教職員の全てにおいて80%を超えており、「基本的生活習慣」については、児童に比べて保護者の方が肯定的な回答が高く、その要因として、児童の自己評価能力が向上し、自己の行いを厳しく見ていることが考えられる。4「児童・生徒理解」については、児童の肯定的な回答の80%に対して、教職員は100%となっており、大きな開きがあった。児童の全ての質問項目について相関関係を求めたところ、2「楽しい学校生活」と関係の深いものは、6「分かる授業」、11「人権教育」、12「道徳教育」であった。

6「分かる授業」の肯定的な回答は90.3%であったが、前年度と比べて有意な差はなかった。7「個に応じた指導」との相関関係が見られたので、多様な学習形態を展開することで、より分かりやすい授業を目指していく。8「学習習慣」については、児童は前年度に比べて7.4ポイント向上したが、保護者については、7.2ポイント低下した。児童と保護者の意識に差がみられるので、「自主学習」の取組の意義や行い方を、児童にも保護者にも分かりやすく伝えていく。情報教育については、前年度と比較しても高い水準を保っているので、ICT機器の積極的な活用に加えて、情報モラルの向上も図っていく。

11「人権教育」については、「よくあてはまる」と回答した児童が54.4%に対して、保護者は36.0%であった。学校公開週間やオープンスクールでの実施など、教育活動を可視化する努力が必要である。13「教育相談」は、児童の肯定的な回答が83.1%と、前年度に比べて8.9ポイント向上した。17「相談への対応」や20「意見の反映」など、教師行動に関する項目と相関関係が高かった。児童や保護者からの連絡や相談を受け止め、改善に向けて迅速に対応することで、児童一人一人が安心して通える環境を構築し、社会性や人間性の育成を図る。

16「情報発信」の保護者の肯定的な回答は94.7%であったが、「よくあてはまる」と回答した保護者は36.0%にとどまった。学校ホームページの更新頻度を上げ、教育活動を広く発信していく。19「地域との連携」は、児童→保護者→教職員の順に肯定的な回答が多くなっている。児童への地域行事への参画意識を高め、学校・保護者・地域の連携を密にしていく。20「意見の反映」は児童の肯定的な評価は、前年度と比較して3.3ポイント向上したが、保護者の22.7%が「よくわからない」と回答していた。意見や要望を受け止め、改善策の提示を可視化していく。

21「SNSルール」についての肯定的な評価は、児童が63.3%に対して保護者は89.9%と、大きな開きが見られた。児童への指導は継続しながら、親子でともにルールを作る取組を充実させるなど活動を工夫していく。22「キャリア教育」は、15「自治的な活動」との相関関係が顕著であった。学級活動や児童会活動での自発的・自治的な活動と、児童の成長の実感に関係性が見られたことは、特別活動を要としてキャリア教育を推進していくという、本校の校内研究の方向性が正しかったことの証である。今後も児童の成長を最優先に、自治的な活動を展開していく。

無効票を除く(%)